

Title	非営利組織の自己革新
Sub Title	
Author	内田俊夫(Uchida, Toshio) 奥村昭博
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1990
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 1990年度経営学 第740号 複写許諾が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001990-0740

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

学生氏名	内田 俊夫 (東京電力株式会社)	主査	奥村 昭博
		副査	田中 滋 高木 晴夫
所属	奥村 昭博 研究室		

非 営 利 組 織 の 自 己 革 新

本研究は、うまく自己革新することのできる非営利組織のプロセス・マネジメントについて、情報創造という観点から分析し考察した。事例研究を採用し、慶應義塾大学、亜細亜大学、神戸市役所、NTT、KDDといった5つの大型の非営利組織を対象として、企業からは生起し得ない優れた知恵を探求し、企業マネジメントへの適用可能性について探索した。具体的には、自己革新することのできる非営利組織が具備している条件、情報創造を促進する手段、相互作用を誘発する要因について分析し、その結果に基づく仮説を導きだし、その後理論モデルの構築を試みた。

事例研究からわかった自己革新のプロセスは、次のようなものであった。

- (1) 先見力をもったトップ・マネジメントが、意図的にカオスを創出していた。
- (2) 優れた非営利組織は高邁な理念に支えられており、先見性と独自性に満ちたビジョンを持っていた。そのビジョンが、意図的に作られたカオスの中から革新的事業を生起させていた。その革新的事業の成功が、組織内に革新を波及させ、新しい秩序の形成を促し、自己革新を実現して行った。
- (3) 革新的事業を生起させるために、組織のエネルギーを増幅させる基盤整備が必要であった。

したがって、非営利組織の自己革新プロセスを促進する重要なポイントは、カオスの意図的創出、優れたビジョンの策定、組織を活性化するための基盤整備、象徴的新事業の育成にあり、これらの果敢な実行に向けたトップ・マネジメントの創造的リーダーシップの発揮にあるとの結論を導いた。

そして、自己革新プロセスを促進するために、トップ・マネジメントが果たすべき4つの役割を明示し、また、営利組織に適用可能と思われるビジョン経営と委員会方式による組織のコンセンサスづくりについて提言を行った。